

令和3年度
文化事業に関する評価報告書

令和4年9月

尼 崎 市

I 評価について

1. 趣旨

文化芸術基本法では「地方公共団体は、基本理念にのっとり、文化芸術に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」と定められています。

こうしたなか、尼崎市では本市の最上位計画にあたる「尼崎市総合計画」の部門計画として策定した尼崎市文化ビジョン（以下「ビジョン」という。）において「本ビジョン推進にあたっては、市は責任を持って文化芸術振興の役割を担う。」「文化の担い手である市民が主体的に活動を展開していくため、市は情報提供・相談などのサポートを行う。」と定めており、本市における文化の位置付けや責務を明確に示しております。

このビジョンを着実に推進するためには、文化事業の進行状況を管理し、必要に応じて改善していくことが重要です。そこで、行政評価と行政運営を連動し、文化施策・事業のPDCAサイクルを運用していくため、本市が実施する文化事業の評価を行います。

2. 評価の対象等

ビジョンでは文化を広義に捉えていますが、実効性のある取組を示すため、芸術分野を中心とした狭義の文化を主に対象とし、次の項目に全て該当する事業を評価対象事業とします。

- (1) 市の予算により実施されている事業
- (2) 継続性のある事業
- (3) 狭義の文化（文化芸術基本法第8条から第14条までの項目（出版物、レコードを除く））（下表のとおり）に関連する事業

芸術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
芸能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能
生活文化	茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化
国民娯楽	囲碁、将棋その他の国民的娯楽
文化財等	有形及び無形の文化財並びにその保存、修復、防災対策、公開等への支援
地域における文化芸術	各地域における文化芸術の公演、展示、芸術祭等への支援、地域固有の伝統芸能及び民俗芸能（地域の人々によって行われる民俗的な芸能をいう。）

なお、公益財団法人尼崎市文化振興財団（以下、「文化振興財団」という。）はビジョン推進の中核と位置付けているため、市の補助金により実施している事業について評価を行います。

3. 評価の方法

文化の効果を評価するにあたっては、定量的な評価や単年度ごとの指標による判断に留まることのないよう、次の2つの異なる手法により、本市の文化事業がビジョンの取組の柱に沿った内容になっているか定量的視点と定性的視点からあわせて評価を行います。

○本市の取組の柱

(1) 若い人の夢とチャレンジを応援する

将来を担っていく若い人の夢を後押しし、飛躍のきっかけとなる機会を提供することで、尼崎が夢とチャレンジを応援するまちであるというメッセージを発信し、そのメッセージが届くことで、新しいもの・ことにチャレンジする人が集まってきます。ビジョンでは取組の柱の最上位に位置づけ、この取組を推進していくこととしております。

(2) 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる

本市には長い歴史とともに育まれてきた歴史資源や長年継承されてきた伝統芸能や祭りが残っています。これらについて学び・楽しみながら、それが守り伝え活かされていくよう、歴史資源等に関連した事業を実施し、歴史・伝統・文化を継承し、発展させていきます。

(3) 市民の芸術体験を支える

文化のづくり手・担い手が育っていくためには、市民が芸術に触れる機会を増やす必要があるため、芸術を「特別なもの」としてではなく、日々の暮らしの中で、呼吸をするように触れ合い、楽しめるような尼崎市を目指すことで、市民のみならず、市外の多くの人たちを惹きつけ、交流を深めていきます。

① 現地視察を踏まえた評価

ビジョンの取組の3つの柱について、毎年度、それぞれ1事業ずつ選出した3事業を対象として、文化・芸術に造詣の深い専門家等（以下「専門家」という。）による現地視察での意見を踏まえた評価を行います。

② 個別事業に係る評価

対象の全ての事業について、達成年度の目標値及びビジョンの取組の柱に沿った事業展開を実施できたかという2つの項目を組み合わせる個別事業を評価します。

評価	目標値に対する評価 (定量評価)	取組の柱に沿った事業展開 (定性評価)
A	目標以上の達成ができた。 (100%より大きい)	実施できた。
B	概ね達成できた。 (80%以上 100%)	実施できた。
C	概ね達成できた。 (80%以上 100%)	実施できなかった。
	達成できていない。 (80%未満)	実施できた。
D	達成できていない。 (80%未満)	実施できなかった。

II 令和3年度事業評価（現地視察を踏まえた評価）

令和3年度の事業評価については、当該年度の代表的な事業が、複数の取組の柱と関連が深いことから、取組の柱それぞれから1事業という条件で限定はせず、取組に偏りが無いよう、事業を選出しました。



【対象事業】

- A 尼子騒兵衛展（取組の柱1・2・3）
- B あまがさきアート・ストロール（取組の柱1・2・3）
- C 歴史博物館特別展「花開く江戸絵画～城下にぎわうころに」（取組の柱2）

A 尼子騒兵衛展（取組の柱1・2・3）

尼子騒兵衛氏は、尼崎市出身・在住で、漫画「落第忍者乱太郎」の作者であり、NHK最長寿アニメ番組「忍たま乱太郎」の原作者として知られています。尼子氏が作り出す乱太郎の世界は、漫画・アニメだけでなく、絵本や映画・ミュージカルなどに広がり、子どもから大人まで幅広い層に愛されています。本展は、令和元年度より整理及び調査を進めてきた尼子事務所所有の作品や資料を活用するイベントであり、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度から開催が延期となったものです。（主催：尼子騒兵衛展実行委員会）

なお、本展は単年度事業ですが、「忍たま乱太郎」ゆかりの地名をめぐるファンのおもてなしや、尼子氏の功績の紹介は常時取り組んでいるものです。

 	目的	尼子氏の原画や資料を通じて人物像を紹介することで、市内外の人が尼子氏の功績に触れる機会づくり、市民が芸術に触れるきっかけをつくる。
	実施内容	原画や資料、約1,500点を通じて、尼子氏の人物像に迫る。
	実施期間	7月17日～9月26日
	目標	8,000人（入場者数）
	実績	5,854人
	効果	緊急事態措置及びまん延防止等重点措置の実施期間と重なり、目標には達していないものの多数の来場者があり、目的の達成だけでなく、まちのにぎわいづくりにも貢献できた。

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では、「地域の文化資源として尼子騒兵衛と比肩できる作家は少ない」、「絶大なる知名度」を持っている、「全国的にファンが多い」ことから、本展が様々な年齢層に訴求した点や、話題性という点で評価されました。

また、小学生から中高生までの子どもの姿も多かったことから、「漫画家を志す人は多

く、若い人への夢を与えられた」という観点でも評価されました。

一方、市民が参画する機会がないことや、「育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる」（取組の柱2）との整合性の観点では、効果に疑問の意見もありました。

展示内容については、ボリュームのある原画の展示に加えて仕事場の再現といった作者に迫る部分もあり、充実した内容であったものの、作品に馴染みのない来場者にとっては展示物の説明が不足しているのではないかという指摘や来場者への配慮として整理・厳選することも必要との指摘もありました。広く市民に来場いただき、市民の誇りにつなげていただくという観点では、展示内容を分かりやすく伝える工夫も必要です。

本展の特徴として特筆すべきは、やはり市外からの来場者数が多かった（アンケート回答者のうち市外の方が 78.3%）ことであり、文化ビジョンでは明示していない文化観光としての効果もあったと言えます。なお、近隣の A-LAB や尼信会館でも尼子氏の原画やグッズの展示会を開催することで、来場者に各施設を周遊いただける取組になっていましたが、他会場の案内などの工夫は改善の余地があったとの指摘がありました。今後、集客力のある事業をする場合には改善することが求められます。

B あまがさきアート・ストロール（取組の柱1・2・3）

本事業は、毎年秋に六甲山で開催されている「六甲ミーツ・アート芸術散歩」のコンセプトを基に、尼崎の街に展示された現代アート作品を自由に歩きながら鑑賞できるアートイベントです。（主催：あまがさきアート・ストロール実行委員会）その一環として、若手アーティストの発表・創作の場である A-LAB でも特別展示を実施しました。

なお、本事業は単年度事業ですが、今後の開催も検討されています。

	<table border="1"> <tr> <td>目的</td> <td>地域ににぎわいを創出するだけでなく、普段尼崎を訪れることのない方がアート鑑賞を機に、市域を周遊し、駅周辺の街の魅力に触れ、商店街等で食事や買い物を楽しむきっかけとなり、地域経済の活性化を図る。</td> </tr> <tr> <td>実施内容</td> <td>15 か所・31 作家による現代アート作品の展示。</td> </tr> <tr> <td>実施期間</td> <td>3月19日～3月27日 (A-LABは3月5日～4月10日)</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>5,000人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4,728人</td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>展示作品に対する満足度が高いだけでなく、尼崎への来訪満足度も高く、尼崎のイメージ向上に寄与できた。人流解析からも周遊を促す効果もあった。</td> </tr> </table>	目的	地域ににぎわいを創出するだけでなく、普段尼崎を訪れることのない方がアート鑑賞を機に、市域を周遊し、駅周辺の街の魅力に触れ、商店街等で食事や買い物を楽しむきっかけとなり、地域経済の活性化を図る。	実施内容	15 か所・31 作家による現代アート作品の展示。	実施期間	3月19日～3月27日 (A-LABは3月5日～4月10日)	目標	5,000人	実績	4,728人	効果	展示作品に対する満足度が高いだけでなく、尼崎への来訪満足度も高く、尼崎のイメージ向上に寄与できた。人流解析からも周遊を促す効果もあった。
目的	地域ににぎわいを創出するだけでなく、普段尼崎を訪れることのない方がアート鑑賞を機に、市域を周遊し、駅周辺の街の魅力に触れ、商店街等で食事や買い物を楽しむきっかけとなり、地域経済の活性化を図る。												
実施内容	15 か所・31 作家による現代アート作品の展示。												
実施期間	3月19日～3月27日 (A-LABは3月5日～4月10日)												
目標	5,000人												
実績	4,728人												
効果	展示作品に対する満足度が高いだけでなく、尼崎への来訪満足度も高く、尼崎のイメージ向上に寄与できた。人流解析からも周遊を促す効果もあった。												
													

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では、「六甲ミーツ・アート芸術散歩」によるプロデュースであることから独創的とは言えないものの、尼崎市で初めての開催であることや、回遊する仕掛けについて評価されました。

作品については、「想像を超えた作品」、「作品からエネルギーを感じ、次回も必ず足を運びたく思う」といった高評価があった一方で、「一般市民が作品前を通りがかったときに『これ何?』と感じたあと、その作品の面白さを鑑賞するに至るかだろうか?」といった、市民が現代アートをどう捉えるかについての疑問の意見や、展示場所周辺の商業者等に作品が認識されていないという指摘もありました。また、作品の独創性やアーティストの育成支援の観点では、尼崎にこだわった作品（A-LAB 展示など）とそうでない作品とで評価が分かれる側面もありました。

広報については全委員から指摘があり、「もっと参加・鑑賞者が増えてもよい事業。そのための情報発信の戦略が大切」、「チラシから内容が分からなかったのも、内容を早めにフィックスして、告知することが重要」、「市民向けの広報が弱いともったいない」など、参加者の増加につながる改善が求められました。

新型コロナウイルス感染症の影響によるまん延防止等重点措置実施期間が含まれていたことや、会期中の天候に恵まれない悪条件ではあったものの、アート作品の展示だけにとどまらず、会期中にはストリートパフォーマンス、演劇、ワークショップ、ブックマーケット、フードなど市民主体のものも含め、様々なイベントを、公共施設だけでなく、商店街、神社、公園などをエリア一帯で開催できました。また、実行委員会形式で地元の事業者などが参画した運営ができました。

今後、開催をする際には、文化振興の観点から、市民・地元の人々が現代アートに親しめるような工夫やアーティストの創作活動の支援の充実が必要です。

C 歴史博物館特別展「花開く江戸絵画～城下にぎわうころに」(取組の柱2)

尼崎市立歴史博物館開館1周年記念の第1回特別展として、コレクションのなかから、「犬追物図屏風」や「洛中洛外図屏風」などの近世風俗図や、尼崎ゆかりの女流画家清原雪信の作品、尼崎が舞台となった幸若舞曲を描いた「新曲図扇面」など、江戸時代前期の絵画を紹介し、天下泰平とよばれる平和な時代の文化の一端にふれていただく展示です。

	目的	歴史資料等の収集の成果を市民に還元し、他都市博物館等からの借用資料も加えた特別展を開催することにより、歴史豊かな文化都市としてイメージアップに貢献する。
	実施内容	近世風俗図、女流画家清原雪信の作品などのコレクション、他館資料の展示
	実施期間	10月2日～11月30日
	目標	1,500人（展示観覧者数）
	実績	10,367人（入館者数）
	効果	1万人を超える入館者があり、観覧者からは高い評価を得た。尼崎の歴史や文化財に関する市民や市外からの来訪者の関心を高めることができた。
<p>会場：尼崎市立歴史博物館 3階企画展示室・展示学習室 (兵庫県尼崎市南城内10番地の2 TEL.06-6489-9801) 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日：月曜日(祝日と重なる場合は直後の平日休館) 入館料：無料</p> <p>当館では新型コロナウイルス感染防止対策を行っています。ご来館の際はご協力をお願いします。 また、観覧の拡大を図るため、随時休館や入場制限を行う場合があります。</p>		

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では、「長年の研究調査や近年の発見作品が展示され、歴史・伝統・文化を継承発展させている」、「教科書で知っている題材の本物を目の当たりにすることの文化的刺激は特別展の本領」、「実際の見聞から、その時代の文化・生活習慣・風土・風習を知ってもらいたい機会」など、高く評価されました。

学芸員の解説により、展示に深みと企画目的が伝わり満足度が高まるため、展示を見ただけの来館者には「動画や音声を用いて補うこと」も必要との指摘がありました。

市民参画については、これまでも展覧会以外の場面で「れきし体験学習ボランティア」が様々な活動をしてきていることから、地域からの参画者を大切にして運営を続けていくことが期待されます。また、子どもたちに学んでもらうために、学校との連携も引き続き重要であるとともに、入場無料であることもPRして様々な属性の市民の来館を促していく必要があります。

歴史博物館が開館して1周年ですが、これまでの調査研究を今後も継続し、展示は「ターゲットを設定した企画展、テーマや課題解決につながる特別展」など、尼崎らしい企画をしながら、次の時代の文化振興につなげていくことが必要です。

Ⅲ 個別事業の評価

【評価結果】

令和3年度に実施した評価対象事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により前年度に未実施であった事業が再開されたものもあり、6事業増え33事業となりました。個別評価の詳細については別紙のとおりですが、評価指標として参加者数を設定している事業も多く、当初設定の目標値をコロナ禍において達成することが難しく、A・B評価が増えにくい側面があります。

(令和3年度 個別評価集計)

取組の柱	評価				未実施	実施 事業数	事業 合計
	A	B	C	D			
①若い人の夢とチャレンジを応援する	1	3	6	0	0	10	10
②育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	2	2	6	0	3	10	13
③市民の芸術体験を支える	2	5	6	0	1	13	14
合 計	5	10	18	0	4	33	37

※新型コロナウイルス感染症の影響などにより中止した事業等を「未実施」としています。

【令和3年度の新たな事業】

①若い人の夢とチャレンジを応援する

- ・白髪一雄現代美術賞

若手アーティストによる先駆的で魅力のある現代美術作品を顕彰し、若いアーティストが活躍できる場の提供を行うものです。初年度は応募者数が47人に留まったため、賞の認知度や価値の向上のため、本市の取組を全国に向けて発信していく必要があります。

③市民の芸術体験を支える

- ・アート@シビック・ロビー事業

市が所蔵する美術品を市内公共施設のロビー等で展示するものです。4期ごとに4テーマで巡回しました。

- ・アウトリーチ事業（音楽）、地域展開事業

これまで市補助事業である美術部門のアウトリーチ事業のみ掲載してきましたが、令和3年度より文化振興財団がシルバー人材センターとの共同事業体として、園田東・園田西生涯学習プラザの指定管理に参入したことを機に地域展開を強化しており、その実態を事業評価に反映していくため、文化振興財団の自主事業ではありますが、掲載しています。

- ・あまがさきアート・ストロール（事業評価対象）

毎年秋に六甲山で開催されている「六甲ミーツ・アート芸術散歩」のコンセプトを基に、尼崎の街に展示された現代アート作品を自由に歩きながら鑑賞してい

ただく試みです。あまがさき歴史音楽祭を転換し、掲載しています。

IV 総括評価

【前年度の評価に対する改善の取り組み】

令和2年度に個別評価を行った「近松賞」「歴史博物館開館記念事業」「おうちでアルカイック」の3つの事業については、次のような改善に取り組みました。

「近松賞」については、上演にあたっての周知の工夫、演劇に興味を持つような発信の工夫が指摘されていました。令和3年度は第8回近松賞の募集・PRを実施しており、演劇専門雑誌などへの広告掲載を行いました。令和4年度に受賞作品の決定、令和6年度に受賞作品の上演のスケジュールで準備を進めており、計画的に上演の周知ができるよう、上演準備を進めていく予定です。

「歴史博物館開館記念事業」については、歴史・芸術・文化に興味を持ち理解しやすい伝え方について指摘されていました。歴史博物館では、令和3年度に行った特別展事業（事業評価対象）と企画展示事業では、それぞれ展示解説を行っているほか、特別展事業では2度の記念講演会を行いました。令和3年度に行った開館1周年記念の講演会では、歴史博物館と関わりの深いテーマで、「歴史博物館と地域振興」（田辺真人氏・園田学園女子大学名誉教授）、「探求！尼崎のあけぼの」（森岡秀人氏・関西大学大学院講師）の2回を開催しました。コロナ禍のなかの開催ということもあり、参加者数を制限せざるを得ませんでした。尼崎の歴史に造詣の深い講師による講話でテーマを掘り下げたことや、豊富な配布資料を準備したこともあって、参加された方には満足いただける内容となったと考えています。

「おうちでアルカイック」については、総合文化センター事業の参加につながるよう、ダイジェスト・概要が分かるようにする工夫などが指摘されていました。令和3年度は感染対策をしながら各種事業が開催されている社会状況の中ですが、「アルカイック避難訓練コンサート2021」や「舞台裏探検ツアー」といった、独自の取組のPRとなるダイジェスト動画の配信や、事業のライブ配信などを行いました。引き続き、企画・撮影・編集の技術を向上させながら取り組んでいく予定です。

【今年度の視察事業に対する評価】

今年度専門家に視察いただいた3事業のうち2事業（尼子騒兵衛展、あまがさきアート・ストロール）は、文化ビジョンの3つの取組の柱いずれにも寄与する事業であり、取組の柱との整合性のチェックはこれまでの枠組みを越える形となりました。市外からの集客につながる企画内容や地域での周遊を促す仕組みについては、現行の取組の柱との整合では評価しにくい面がありました。いずれも予備知識のない市民に魅力を伝え、体感して

もらうためには、工夫が必要な点が指摘されています。

歴史博物館特別展については、取組の柱の方向性に沿ったものであるという評価を得ており、今後の企画展・特別展や市民参画の充実が引き続き期待されます。

(Ⅱ 令和3年度事業評価(現地視察を踏まえた評価)を参照)

【今後の事業改善に向けて(全体を通して)】

これまでの事業評価では、周知の方法など広報についての課題や、参加者等の高齢化・若い世代の取り込み不足が多く、事業に共通した課題となっています。また、感染対策を取りながら事業を実施している状況においては参加者数の伸び悩みもあります。

前回の事業評価でも提示されていた、SNSの活用促進だけでなく、その内容も含めた情報発信力の強化、新たな参加者獲得に向けて様々な施設に出向いて事業を実施すること、ワークショップの実施などの対応に引き続き取り組んでいきます。

【ビジョン改定に向けて】

現行のビジョンの取組期間が令和4年度で終了するため、令和4年度中にビジョンの改定を行います。改定にあたっては、本市の総合計画での文化の位置づけが「地域コミュニティ・学び」の施策に転換する予定であること、コロナ禍の影響などの社会をとりまく環境の変化に対応したものとすること、(公財)尼崎市文化振興財団と市との役割分担などを検討していく予定です。

これまでの5年間において、当事業評価は、取組の柱をベースとして事業をチェックする役割を果たしてきており、各取組の柱に沿った新規事業の創設や、事業内容の改善に貢献してきました。その蓄積の上に改定されるビジョンの今後の評価においては、改定のポイントを意識的にチェックできるよう検討していきます。

また、今回の事業評価においては、取組の柱に明確に示されていない観点や、複数の取組の柱と関連が深い取組について、現行の枠組みでの評価のしにくさも課題として明らかとなったため、ビジョンの改定内容への反映と、評価方法の改善の両面での検討もしていきます。

個別事業の評価方法に関しては、評価指標として参加者数を設定している事業の達成度がコロナ禍において伸び悩むことになり、定量評価の難しさがより浮き彫りになりました。今後は定性評価を重視することも検討していきます。

以 上

令和3年度文化関連事業個別評価表

No.	事業名	取組の柱	事業概要							経費			評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価		アンケート	
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(誰向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R3事業費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	R1	R2	R3	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題		今後の方向性
1	尼子騒兵衛作品等資料収集・調査・活用事業	文化振興担当 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる 市民の芸術体験を支える	令和2年度	尼子騒兵衛氏の作品、資料を整理し、尼子騒兵衛氏のこれまでにの事業を体系的に紹介する全国で初めての「尼子騒兵衛展」の開催することによって、全国へ尼子の魅力・地域資源を発信し、市民にまちの魅力として誇りに感じてもらうシビックプライドの醸成を目的とする	尼子騒兵衛氏の作品、資料を整理し、尼子騒兵衛氏のこれまでにの事業を体系的に紹介する全国で初めての「尼子騒兵衛展」を開催することによって、全国へ尼子の魅力・地域資源を発信し、市民にまちの魅力として誇りに感じてもらうシビックプライドの醸成を目的とする	全世代	7月17日～9月26日	1	34121	6,056	入場者数(尼子騒兵衛展)	人	8000	R3	-	-	5854	尼子騒兵衛展:令和3年度文化庁文化芸術振興事業補助金、自治体総合センターコミュニティ活動事業採択 ・市報 ・あまらぶFB ・プレスリリース ・チラシ ・ポスター ・Twitter	尼子騒兵衛展:実行委員会による運営	-	-	入場者数は目標を達成できなかったが、開催期間中はA-LABや尼崎城、歴史博物館、尼信会館など展覧会場周辺の施設で連携して周遊に繋げることができた。ファンの方々だけでなく、市民にも周知し市内での認知度を高めることも必要。	入場者数は目標を達成できなかったが、開催期間中はA-LABや尼崎城、歴史博物館、尼信会館など展覧会場周辺の施設で連携して周遊に繋げることができた。ファンの方々だけでなく、市民にも周知し市内での認知度を高めることも必要。	今後とも地域資源として、まちの魅力増進やシビックプライドの醸成に繋げていく。	98.6	
2	尼崎落語選手権	文化振興担当 若い人の夢とチャレンジを応援する	平成27年度	地域資源である「落語」を本市の魅力として発信するとともに、落語を発表する場を提供して若い人のチャレンジを応援する。	「お笑い」落語」を本市の魅力として発信する大学対抗の落語大会。	大学生(大学、専門学校、高等、大学院大学等含む)	12月4日	1	78	506	出場校数	校	14	R4	11	5	12	-	・市報 ・市HP ・プレスリリース ・あまらぶFB ・チラシ ・Twitter ・YouTube	-	-	コロナによる感染拡大が依然として続いてきたが、昨年度に引き続き、観覧を事前申し込み制・上限78人・設定し、感染防止対策を十分行った上で実施した。	観覧者を設けたが希望者が多かったため、より多くの方に学生落語を楽しんでもらえるよう検討が必要。また、参加が増えた場合、予選等の検討を行う必要がある。	12校中、8校が関西以外(東北、関東、九州等)から参加があった。初出場4校も関西以外の大学であり、全国的に知名度が上がってきた。	当日のライブ配信や後日配信するYouTubeのPRを行う。また、昨年度はコロナのため中止したキューズモールでの学生落語、市内広域で学生落語を楽しむ機会を作る。	92%
3	あまらぶアートラボ運営事業	文化振興担当 若い人の夢とチャレンジを応援する	平成27年度	若手アーティストの発表・創作の場として活用することで、若い人の夢やチャレンジを通して、落語を発表する場を提供して若い人のチャレンジを応援する。	若手アーティストによる展覧会やワークショップを開催する。	全世代	通年	展覧会5回、トーク9回、イベント1回	4,749	19,919	入場者数	人	3,300	R4	2,666	3,556	4,199	-	・市報 ・市HP ・あまらぶFB ・プレスリリース ・A-Labインスタグラム ・チラシ ・ポスター ・Twitter ・YouTube ・ペイコム ・ニュース、CM	-	-	他の事業と関連した企画を実施することにより、より多くの来場者に来ていただくことができた。	昨年度に引き続きコロナ禍という状況下、展示イベントの実施が十分にできなかったが、来場者数が増えたため	展覧会以外のイベントの充実を図る	ワークショップなどのイベントをA-LABだけでなく、市内広域に出向いて行い、より多くの市民に文化芸術を体験できるように取組を進めている。	91%
4	ティーンズサポートチケットPR事業	文化振興担当 若い人の夢とチャレンジを応援する	平成25年度	尼崎市総合文化センターとシビックプラザで開催される舞台公演などを10代の皆さんに安価に提供し、本物の音楽や舞台などの芸術に触れる機会をつくる。	1公演ごとに10席限定で500円の子供チケット販売を行う事業をPRする。	13～19歳	通年	9回(うち1回中止)	29	146	応募者数	人	200	R4	107	25	71	-	・市報 ・市HP ・あまらぶFB ・チラシ	-	-	コロナによる中止や対象年齢が少なかったが、通年で実施することができた。	昨年より応募者が増えましたが、コロナの影響もあり、目標値を大きく下回った結果となったため	より多くの方に応募いただけるように広報等工夫していく	SNS等の告知やチラシを広く配布することで応募者の増加を図る	-
5	文化未来奨励賞	文化振興担当 若い人の夢とチャレンジを応援する	平成30年度	芸術性の高い優秀な作品などを制作し、全国規模の活動を展開しようとしている若手芸術家を支援し、顕彰するとともに、市内で発表する機会を持つよう支援を行うことで、若い人の夢とチャレンジを応援する。	第4回受賞者として、顕彰する。第3回受賞者である音楽家のワークショップ、発表を行った。	40歳以下	募集期間:7月中旬～8月末頃 表彰:11月下旬～12月初旬頃	1回	9	1,106	応募者数	人	25	R4	14	9	9	-	・あまらぶFB ・プレスリリース ・チラシ ・ポスター ・Twitter	-	-	応募が少ない分野に対して積極的な広報を目標とする	候補者数が目標値に届かなかったため	候補者数を増やすための工夫を行う	募集期間を長くし、周知を広げるとともに、新しいノミスターを選出したい対象者が選出されるようにする	-
6	公開レッスン・コンサート	文化振興担当 若い人の夢とチャレンジを応援する	平成30年度 ※平成29年度は共催	市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者である大橋氏の指導を受け、若い人の芸術体験を支え、若い人の夢とチャレンジを応援する	市立中学校1校の吹奏楽部、市立高校1校の吹奏楽部生が出演し、公開レッスンをコンサートを実施した。一般の方も鑑賞可。	中・高校生	11月6日	1回	465	1,000	入場者数	人	1,300	R4	1,300	364	465	-	一般財団法人山岡記念財団より文化振興基金に事業費を寄付いただいた分を市予算に充当	市HP ・財団HP ・チラシ ・あまらぶFB等	山岡記念財団・尼崎市教育委員会が主催し、尼崎市文化振興財団が共催で実施している	コロナ禍で関係者のみの入場ができたようにしたが、参加人数が目標値に届かなかったため	一般の方の入場ができるよう、より積極的に周知を行い、学校関係者や吹奏楽関係者からの参加を増やす	広報に力を入れ、より多くの方に来場いただけるようにする	-	
7	郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト	文化振興担当 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成31年度	本市の出身でフット・ペインティングにより世界的にも著名な画家郷土画家「白髪一雄」の画業や作品を本市の誇るべき地域資源としてその魅力を市民、国内外の人々にPRする。	R3年度の開催はなし。R4年度に宮崎県立美術館での開催が決定したため、輪流に向けて着々の制作や補強、連絡調整等を行った。	全世代	なし	-	-	154	来館者数(3ヶ月合計)	人	18000(3ヶ月)	R3	31,142	2,786	-	-	-	-	-	-	コロナの影響もあり、令和3年度は開催館が決まらず実施できなかった。令和4年度に宮崎県立美術館で開催が決定したため、輪流に向けて着々の制作や補強、連絡調整等を行った。	主要な美術館は数年後のスケジュール計画を立てているため、継続して実施していくにはできるだけ早く美術館と交渉していく必要がある。また、全国で「白髪一雄」の認知度をあげていくことも必要である。	令和4年度には、宮崎県立美術館での開催が決定している。その次の開催館についても、出来るだけ早く方針を固めて交渉を進める。	-
8	アート@シビックロビー事業	文化振興担当 市民の芸術体験を支える	令和3年度	本市が所蔵する作品の有効活用。また、市内各地でアート作品に触れる機会を市民に提供し、文化事業を市内の各地域にアウトリーチする。	市役所本庁舎や生涯学習プラザのロビー等に、本市が収集しているアート作品を活用したミニ展覧会を開催する。	全世代	初年度は6月頃からスタート 2年目からは通年	16回(全4期・各期4テーマを巡回)	-	200	案内チラシの持ち帰り枚数	枚	20,000	R3	-	-	986	-	-	-	-	-	足を止めて観賞する人が見受けられ、設置した生涯学習プラザ等から好評であった。しかし、案内チラシを持ち帰る人が少なかったため、PRや展示方法を工夫することができず目標は未達成となった。	作品を鑑賞する通行人はいるが、事業として実施していることが多くなく、案内チラシを持ち帰る人が少なかったため、PRや展示方法を工夫することができず目標は未達成となった。	案内チラシのデザイン変更、作品情報等のチラシ内容の充実を図る等、手に取りやすい工夫や、展示方法の見直し等を行う。	-

令和3年度文化関連事業個別評価表

	課名	取組の柱	事業概要							経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価		アンケート				
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(趣向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R3 事業費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	R1	R2	R3	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価	評価の理由		課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合	
8	白髪一雄現代美術賞	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	令和3年度	既成概念にとらわれない前衛的な作品を発表した現代美術画家「白髪一雄」氏にちなみ、若手アーティストが活躍できる場の提供を行うことで、これからの活躍の登竜門となる場所として尼崎市を全国的に発信していく。	第1回白髪一雄現代美術賞の受賞者として1人を選出する	40歳以下	募集期間:6月～1月頃 表彰:3月 展示:翌年度	1回	47	459	応募者数	人	200	-	-	47	-	-	-	C	全国から応募いただいたが、第1回ということもあり、目標値に届かなかったため	より多くの方に応募いただけるように、価値の高い賞にしていきたい	今まで聞いていなかったところへの周知や、第1回受賞者の発表を行うことにより多方面からの周知を行う	-			
9	白髪一雄記念室	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発信させる	平成25年度	尼崎市出身であり世界的に評価された画家「白髪一雄」の作品を展示し、功績を紹介する。	①第17回展示「白髪一雄と尼崎Ⅱ-画家ゆかりの地をめぐる」 ②第18回展示「SHIRAGA × ALMOSTBLACK」	全世代	①4月24日～9月26日(緊急事態宣言により4月25日～5月14日は休館) ②10月23日～3月21日	年2回	2,885	6,743	入場者数	人	3,468	R4	3,574	1,915	2,885	-	-	-	B	展示会の内容と併せた「白髪一雄ゆかりの地まわりのツアー」の実施や、ファッションブランドとのコラボレーション等、新しい方向での企画を組み込み、入館者数の増加につながった。	テラ、WEBを媒体とする広報活動を強化するとともに、テレビ等メディアへ積極的な協力を行い白髪一雄の周知につながった。	展示会の内容と併せた「白髪一雄ゆかりの地まわりのツアー」の実施や、ファッションブランドとのコラボレーション等、新しい方向での企画を組み込み、入館者数の増加につながった。	今後も幅広い年代層に白髪一雄の画業・作品に親しんでもらえるよう、取り組みを継続したい。	紹介内容を充実させるなど、マンネリ化を防ぎつつ作品展示に付加できる魅力を工夫し、新規のファンを獲得しリーダーにも満足いただけるよう工夫する。	-
10	美術展事業	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	優れた芸術を紹介することにより、市民が芸術文化に対する意識を高め、生活に潤いをもたらす。	郷土作家の作品や優れた作家の作品を紹介する展覧会を開催する。 ①森松圭子「まなざしのものがたり」 ②白髪一雄×須田浩太 二人の曼陀羅	全世代	①5月15日～6月13日 ②11月27日～1月10日	年2回	①1,232 ②1,602	11,474	入場者数	人	4,644	R4	3,060	2,048	2,834	-	-	-	C	PR、集客効果を高めるため、フェイスブックの活用やチケットサブスクリプションの導入などを行った。	PR、集客効果を高めるため、フェイスブックの活用やチケットサブスクリプションの導入などを行った。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催日が遅るなどの影響があったが、概ね当初の目標通りの集客を達成することができた。森松圭子氏の尼崎市民芸術賞の受賞、近隣の画家・須田浩太と白髪一雄との交流などを紹介し、本市ゆかりの芸術家を広くアピールできた。	本市ゆかりの芸術家の紹介と、市民に良質な美術を紹介することを目的とした展覧会の開催に努める。	①97% ②99%	
11	市展	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	市民の芸術体験を支える	平成23年度	日頃より芸術文化に関心を抱いている市民に発表の機会を提供し、市民の創作意欲の向上と芸術文化に対する意識の高揚を図る。	洋画、日本画、彫塑、立体・工芸、写真、書画の作品を一般公開する。	全世代	2月26日～3月6日	年1回	(参加)204 (入場者)1,505	4,370	参加者数、入場者数	人	(参加)265 (入場者)1,721	R4	(参加)252 (入場者)1,497	(参加)263 (入場者)1,583	(参加)204 (入場者)1,505	-	-	-	B	若年層や新規参加者への広報活動を強化した。	募集要項を全面的に刷新するなど工夫し、新規の方からも積極的な応募を促した。	実施時期の変更、他市の公募展の再開等の要因により参加者数の減少が見られた。	開催時期の周知に力を入れるとともに、現代の創作活動に合った募集要件の見直しなど工夫を続ける。	-	
12	ふれあいギャラリー	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	市民の芸術体験を支える	平成4年度	市内で地域に根ざした活発な創作活動を展開している文化団体に対し、発表の場を提供し、市民文化の振興を図る。	市内で創作活動している団体が、順次、グループ発表会を開催する。	全世代	①10月6日～12月20日 ②2月16日～3月23日	年2回(14)	1,700	2,040	参加団体数	クール(週)	14	R4	13	11	14	-	-	-	B	老朽化していた椅子・音響等の設備や募集要項(参加条件)を更新し、利用者から好評をいただいた。	参加団体数・入場者数ともに増加し、各団体による特色ある展示が行われた。	展示内容や参加団体の多様化に対応しつつ、広報を工夫する。	今後も若年層・新規団体への積極的な広げや、会期中の他の主催事業(展覧会)との相互PR等、周知に力を入れる。	-	
13	文芸祭	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	市民の芸術体験を支える	平成21年度から移管	市民の文芸活動への参加を促進するとともに、作品研究会を通して文芸の振興と交流を図る。	広く川柳・短歌・俳句の文芸作品を募集し、優秀な作品は文芸作品集に掲載するとともに、文芸祭大会で、作品の研究会を行う。	全世代	募集期間:6月1日～7月14日 表彰:12月12日	年1回	1,211	3,659	応募作品数	件	1,320	R4	1,385	1,545	3,045	-	-	-	A	今年度から応募可能数の一部につき2作品に増やした。(前年度までは一部につき1作品)また、近隣中学校の国語の授業に川柳を取り入れていただき、応募作品数増に繋がった。	今年度から応募可能数一部につき2作品に増やした。(前年度までは一部につき1作品)また、近隣中学校の国語の授業に川柳を取り入れていただき、応募作品数増に繋がった。	応募可能数の増加により作品総数が倍増し、より多様な作品を集めることができた。また、外出自粛の影響もあり、文芸作品集の売上が昨年度より増加した。	効果的な、PR方法、広報媒体の開拓	昨年度の獲得に向けたHPでの広報強化やインターネット受付の再整備を通して、事業の認知度を上げていきたい。	-
-	尼崎薪能	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発信させる	昭和55年度	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統文化への関心を高揚し、市民文化の振興を図る。	-	全世代	開催中止	年1回	-	1,203	参加者数	人	800	R4	(雨天中止)	900	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
-	富松薪能	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発信させる	昭和55年度(富松は平成8年度から補助)	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統文化への関心を高揚し、市民文化の振興を図る。	-	全世代	開催中止	年1回	-	-	入場者数	人	800	R4	800	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

令和3年度文化関連事業個別評価表

	課名	取組の柱	事業概要							経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価			アンケート					
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(誰向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R3事業費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	R1	R2	R3	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題		今後の方向性	満足と答えた人の割合			
14	演劇祭	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和26年度	演劇団体に発表の場を提供し、一堂に會することにより相互交流と研鑽を図り、演劇を通じて文化の向上を図る。	尼崎市舞台芸術協会による演劇発表会を実施する。	全世代	2月5日～2月6日	年1回	112	930	出演団体数	団体	8	R4	7	-	5	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	-	設置・バラシの作業を舞台スタッフと共に学生が行い、舞台裏の仕事にも興味をもつ視察入場者が増えてきた。	C	新型コロナウイルス感染症拡大により、参加団体辞退が続出した。秋祭作品での公演差し替えを行うなど対応したが、結果的に全体の入場者数低下につながった。	・加盟団体の参加率が低いこと ・尼崎市演劇祭の周知が十分でないこと ・観客者による入場が多岐にわたるため、広報開拓として、プレスリリース、演劇専門誌への情報提供、SNSの利用を通じて、尼崎市演劇祭が継続できるよう、努めてまいります。	尼崎市演劇祭が抱える問題は、尼崎における演劇人口の少なさを物語っている。見直しが必要でないことには起因しているため、広報開拓として、プレスリリース、演劇専門誌への情報提供、SNSの利用を通じて、尼崎市演劇祭が継続できるよう、努めてまいります。	-	-		
15	新人お笑い尼崎大賞	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成12年度	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたく芸能人を発掘かつ育成し、このまちの文化の発展と向上に寄与することを目的とする。	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたく芸能人を発掘かつ育成する。コンクールを開催する。	全世代	本選:9月26日	年1回	467	2,392	エントリー数(入場者数含む)	組	1,130	R4	1,075	353	467	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	-	新型コロナウイルス感染症拡大により、協賛金の獲得が難しくなる中、予選会を非公開で実施するなど、感染拡大を防ぐとともに経費削減にも努めた。	C	新型コロナウイルス感染症拡大により、協賛金の獲得が難しくなる中、予選会を非公開で実施するなど、感染拡大を防ぐとともに経費削減にも努めた。また、感染拡大により予選会への出場エントリー数は大幅に減った。	協賛金の獲得については、社会経済情勢に影響されるため、公的な助成金など、経済に影響されない協賛団体を獲得できるよう次回に向けて対策を検討する。	出場者の新規獲得のため、より一層近隣地域へ向けて、大会録音を含めたPR発信を重点的に行う方法について検討してまいります。また協賛金についても事業運営に理解を頂ける企業を新たに発掘できるよう努力します。	-	-		
16	尼崎文楽公演	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	伝統芸能である人形浄瑠璃、歌舞伎を通して近松芸術への理解を深める。	文楽公演 屋の部:谷継軍 葎の部:曾根崎心中	小学生以上	3月9日	年1回	348	2,377	入場者数	人	(文楽)750 (歌舞伎)1,900	R4	-	-	(文楽)348	-	・市報 ・財団HP ・新聞折込 ・チラシ ・ポスター ・企業幹線 ・近松関連団体幹線	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として客席を半数以下にして販売したことにより入場者数が前回の半数程度に減ってしまっ	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として客席を半数以下にして販売したことにより入場者数が前回の半数程度に減ってしまっ	今後継続して開催するためには新たな層への働きかけを行い、来場者の増加を図っていくことが必要である。	今後も文化振興事業の一つとして、地域の皆様にご日本の伝統芸能を身近に感じたい。継続して実施していきたい。	-	-		
17	近松祭	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和11年度	近松門左衛門の功績を顕彰するを目的とし、近松記念館で近松をテーマとする演芸等の行事を行う。	人形浄瑠璃、浪曲、人形劇、落語、語りなど近松門左衛門ゆかりの演芸等上演する。令和年度は(墓前祭のみ実施)。	全世代	10月24日	年1回	46	843	参加人数	人	600	R4	510	50(墓前祭のみ実施)	46(墓前祭のみ実施)	-	-	-	-	-	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、観客定員と座席に奉納行事のみしか開催できていない。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響でこの2年奉納行事のみしか開催できておらず、平常時に戻った時には来場者が激減している。新しい告知等しかりと策を講じる必要がある。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響でこの2年奉納行事のみしか開催できておらず、平常時に戻った時には来場者が激減している。新しい告知等しかりと策を講じる必要がある。	若い方への参加呼びかけと財源確保	-	-
18	近松ナウ	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	市制70周年(1986年)を契機に、「近松のまち・あまがさき」を目指して、多彩な文化事業を展開。その一環として「近松を現代に魅せる」をコンセプトとして実施。	近松の世界を現代に魅せるよう、近松をテーマにした各種の催しをテーマとしてPRすることで、より多くの観客に「近松を現代に魅せる」をコンセプトとして実施。	全世代	9月～3月	12事業	29,747	1,387	事業本数	事業	21	R4	17	9	12	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	民間の協賛団体の確保に努めている	市内外へ向けた近松の情報発信のため、近松門左衛門にゆかりのある地域への全体的なPRを行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で協賛予定団体の事業が中止となり、事業数が減少した。	C	市内外へ向けた近松の情報発信のため、近松門左衛門にゆかりのある地域への全体的なPRを行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で協賛予定団体の事業が減少した。	市内外へ向けた近松の情報発信のため、近松門左衛門にゆかりのある地域への全体的なPRを行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で協賛予定団体の事業が減少した。	本事業を通して、「近松のまち・あまがさき」PRを強化し、新たに協賛団体を確保する。	-	-		
19	近松賞	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成13年度	近松の功績を顕彰するとともに新たな演劇作品の発掘、次代の演劇界を担う優れた劇作家の育成を目的に実施する。	戯曲を募集し、審査を通過した作品を対象に選考会を実施して大賞を決定、大賞作品については、賞状期間を設けて上演する。令和3年度は第8回近松賞の募集・PRを実施。	全世代	通年	-	-	4,984	-	-	-	-	-	-	-	-	・パンフレット作成 ・新聞広告掲載 ・雑誌広告掲載	-	過去応募者へのパンフレット送付の他、新聞広告や雑誌広告など一般市民へ向けたPRを行った。	B	当初の計画通り、PR関連を実施することができた。	財源の確保	次回の募集に向け、発送リストなど名簿の整理を行う。	-	-		
20	アウトリーチ事業(美術)	尼崎市文化振興財団(市補助金事業)	市民の芸術体験を支える	平成24年度	市内の子どもたちが芸術を肌で体験・体感できる場を提供する。美術部門では、身体を使った創作の楽しさを体感する場を提供する。	尼崎市が誇るアクション・ペインター白壁一雄氏の画業を紹介しながら、その独創的な目で絵を構(描)法を体験してもらう。	全世代(小学校高学年児童生徒中心)	通年	3箇所6回	149	1,759	実施箇所	箇所(学校・園・公共施設等)	6	R4	7箇所(13回)	2箇所2回	3箇所6回	助成金獲得	募集チラシ	-	市内小学校だけでなく、幼稚園においても積極的に実施した。	C	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で公演が中止になり、小学校で予定した公演数が当初の予定数を下回ったが、後者層が広いペースを利用し、密にならないよう入場数を調整し実施した。	市内小学校を中心に、子どもたちが芸術を肌で体験できる機会を増やしている。	実践プログラムの中にレクチャーを取り入れるなど、よりわかりやすい芸術を身近に感じられるようしていきたい。	-	-		
21	アウトリーチ事業(音楽)	尼崎市文化振興財団(自主事業)	市民の芸術体験を支える	平成20年度	市内の子どもたちが芸術を肌で体験・体感できる場を提供する。音楽部門では、楽器に触れたり、本物の音楽を生で体験することにより、感性を養い、音楽の楽しさを体感する場を提供する。	尼崎を中心に関西で活躍する音楽家による生演奏を実施。	全世代(小学校高学年児童生徒中心)	通年	31	978	3,535	公演数	回	40	R4	25	31	31	助成金獲得	・小学校長会 ・各学校宛チラシ	-	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で公演が中止になり、小学校で予定した公演数が当初の予定数を下回ったが、後者層が広いペースを利用し、密にならないよう入場数を調整し実施した。	C	市内小学校を中心に子どもたちが本物の音楽に触れることができる機会を増やしている。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、生徒との共演などを実施し、芸術体験の機会を増やしていきたい。	-	-			

令和3年度文化関連事業個別評価表

		事業概要	経費	評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価			アンケート									
				課名	取組の柱	事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(誰向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R3事業費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度		R1	R2	R3	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価	評価の理由
22	地域展開事業	尼崎市文化振興財団(自主事業)	市民の芸術体験を支える	令和3年度	市内のさまざまな場所で、あらゆる世代の市民が文化芸術に触れきっかけとして、市民に文化芸術体験の場を提供し、地域の活性化とまちづくりに貢献します。	生涯学習プラザ等への音楽や美術のアウトリーチ事業	全世代	通年	21	464	-	回	24	R5	-	-	21	-	・募集チラシ	-	-	B	新型コロナウイルス感染症拡大のなか、目標に近い実績を挙げた。	音楽や美術だけでなく、市内のさまざまな場所で文化芸術を体験する場を提供する。	文化芸術によるきっかけづくりを推進し、地域との関係性を深めるとともに、多様な活動者等が従事できる場づくりに取り組んでいく。	-	
23	文化教室事業	尼崎市文化振興財団(自主事業)	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	開館以来、市民ニーズに応えるべく幅広い各種講座を定例として、市民に文化芸術体験の場を提供する。	洋舞・邦舞コースをはじめとし、音楽、美術から文学や教養に至る多岐の講座を開講している。	全世代	通年	8コース64講座	694	21,212	受講者数	人	800	R4	771	706	694	-	・市報 ・財団HP ・新聞折込 ・チラシ	-	-	B	緊急事態宣言等による休講もあったが、感染対策を講じて継続開講することにより、受講生の大幅な減少には至らなかった。	広報(受達生募集)は新聞折込が有効な手段であるが、より幅広い層に届く広報が課題である。	受講生数は確保しながら、各講座の地域展開を促す。	-
24	ホール事業	尼崎市文化振興財団(自主事業)	市民の芸術体験を支える	昭和57年度	尼崎市民の文化の向上	オペラ、バレエ、クラシック、お笑いなど幅広いジャンルでの事業を実施。また、子ども向けの事業も実行している。	全世代	通年	30回	12,400	28,283	参加人数	人	29,915	R4	23,979	3,672	12,400	-	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・ポスター、チラシの配布 ・新聞広告 ・団体幹渉	-	-	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から計画通りに公演を開催することができなかったが、当初予定の7割程度の事業を感染対策を講じながら、開催することができた。また、公益財団法人兵庫県芸術文化協会からの令和3年度次世代の振興費を支援事業として100万円の助成金を獲得することができた。	様々な助成金の獲得方法を検討する必要がある。	幅広い年齢層に向けた事業展開を行う。	96.6%
25	おうちでアルカニック	尼崎市文化振興財団(自主事業)	市民の芸術体験を支える	令和2年度	コロナ禍においても人々が文化芸術に触れる機会を絶やさないよう、文化振興財団のHP上に様々な文化コンテンツの動画を公開している。	主催する文化事業の模様、動画によるワークショップ、白髪講座の紹介、施設紹介などをYouTubeを通して配信した。	全世代	通年	20本	22,555	-	視聴数	回	10,000	R4	-	8,967	22,555	一部機材購入に際して、文化庁の助成金を活用した。	・財団HP ・ポスター掲示 ・チラシ等掲載	一部動画は、共催団体や支援を行っている団体の協力を得て制作した。	機材を充実させ、さまざまな撮影に対応できるようにした。	A	視聴数、チャンネル登録者数は順調に伸びている。	コンテンツのさらなる充実、他のSNSとの連携。	・視聴者が短時間で興味を引くような動画を作成する。 ・ライブ配信などにも積極的に取り組む。	-
26	あまがさきアート・ストロール	観光振興課	市民の芸術体験を支える	令和3年度	地域にぎわいを創出するだけでなく、普段尼崎を訪れることがない方がアート鑑賞を機に、市域を周遊し、駅前周辺の街の賑わいに触れ、商店街等で食事や買い物を楽しみきっかけとなり、地域経済の活性化を図る。	「六甲ミーツ・アート芸術散歩」のコンセプトを軸に、尼崎の街に展示された現代アート作品を自由に歩きながら鑑賞する。	全世代	3月19日～3月27日	1	4,728	12,557	来場者数	人	5,000	R3	-	-	4,728	企業販ふるさと納税(地方創生システム「SCBふるさと応援団」)	・市報 ・市HP ・公式HP ・その他団体HP ・ポスター ・各種SNS ・各種屋外広告	実行委員会による運営	B	新型コロナウイルス感染症の影響によるまん延防止等重点措置実施期間中であつたことや、会期中の天候に恵まれない悪条件ではあつたものの、美術展にとどまらず、ストリートパフォーマンス、演劇、ワークショップ、ポップマーケット、フードなど市民主体のものも含め、様々なイベントを、公共施設だけでなく、商店街、神社、公園などをエリア帯で開催し、概ね目標に近い参加者数となつたため。	継続して実施したいが、次回開催に向けた財源の目途が立っていない。	継続していくことを検討している。	-	
27	少年音楽隊事業	子ども青少年課	若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和37年度	豊かな情操と健やかな心を持つ子どもを育成するとともに、本市の音楽文化の向上に寄与する。	合唱隊、吹奏楽隊、ハイトーン隊、トランペット隊、ドラム隊の5隊で構成し、定例演奏会の実施の他、地域のイベントにも多数出演している。	青少年(小学校6年生等)	通年		226人(R3隊員数)	3,824	隊員数	人	270	R3	257	245	226	楽器の寄付を毎年受けており、公費による楽器購入は行っていない	・市報 ・市HP ・チラシ(市内小学校、公共施設等) ・ポスター ・小学校校長会	-	-	B	隊員数は令和3年度末の隊員数は226人を数え、目標水準に概ね到達している。(達成率83.7%)少年音楽隊の日々の活動を週を通じて、青少年の健全育成を図るとともに、隊の認知度も上がり、隊員数の増加にもつながっていくものと考えている。	昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、少年音楽隊の活動が制限されたが、感染症対策を十分に講じながら良好な練習環境を整え、新型コロナウイルス感染症を機に隊員数が減少することをいよう活動内容の層の厚さを保つこと。	当該事業は、隊員の保護者や教育委員会との密接な連携が不可欠であり、今後もこうした主体と連携を図りながら事業を推進していく。	-
-	育み・育ち・つなぐ音楽のまち尼崎事業	学校教育課	市民の芸術体験を支える	平成28年度	児童生徒による多彩な音楽活動を通して、子ども達を育み、大人も育ち、市民にとって、愛着と誇りの持てるまちや未来につながるまちづくりを推進する。	児童生徒による多彩な音楽活動を通して、子ども達を育み、大人も育ち、市民にとって、愛着と誇りの持てるまちや未来につながるまちづくりを推進する。	小・中・高等学校の児童生徒・保護者・一般	8月～3月	年12回	4,477	3,104	入場者数	人	12,000	-	1,189	(開催中止)	4477	-	・保護者にお知らせの配布	-	-	-	【変更点】 ・令和2年度まで文化関連事業個別評価の対象としていた「あまがさきコンサート」は令和3年度より廃止。 ・令和3年度からは、「小学校音楽会委託事業、中高合同音楽会委託事業、定期演奏会補助金事業」として、継続して実施。 【令和3年度】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、小学校音楽会は中止。 ・中高合同音楽会は、規模を縮小して実施。 ・定期演奏会は、規模を縮小して実施。(一般市民の来場は中止など)	・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一般市民の来場は中止とし、出演者・補助員・保護者のみの来場とした。 ・出展校の交通手段を確保するのが難しい	・対象の行事が変更となることから、令和4年度からは評価指標を見直し予定。 ・令和4年度の実施については新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、実施方法・実施の可否について検討する必要がある。	アンケート未実施

令和3年度文化関連事業個別評価表

	事業概要	経費	評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価			アンケート											
			R3 事業費 (単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	R1	R2	R3	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価		評価の理由	課題	今後の方向性								
28	田能資料館教育普及事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	令和3年度 (前身となる「古代のくらし体験学習事業」は昭和46年度「田能遺跡サポーター養成事業」(平成28年度)	目的 弥生文化をより身近なものとして理解するため、古代のくらしを体験できる学習会を展開し、令和4年度オンライン授業の取組を開始する。 実施内容 ・古代のくらしを体験できる学習会を開催する。令和4年度オンライン授業の取組を開始する。 ・田能遺跡サポーターを養成し協働の取組を推進するため、ボランティア募集の加入、専任のサポートや研修を行う。	対象世代 (種別)小学生	実施期間 通年	実施回数 (回)	参加人数 (人)	R3 事業費 (単位:千円)	参加者数	人	300	R4	183	97	170	—	・市報 ・市HP ・チラシ	市民ボランティアである田能遺跡サポーターの協働による事業実施に努めている。 ・田能資料館の図録をリニューアルし刊行した。	・交通便利性の面で不利な立地であることや、新型コロナウイルス感染症防止の観点から来館促進が難しいことを踏まえ、新たな取組として小学校等とのオンライン授業の試行を行った。 ・田能資料館の図録をリニューアルし刊行した。	C	取組の柱の方向性には合致しているものの、新型コロナウイルス感染症防止の観点から来館促進が難しいことを踏まえ、新たな取組として小学校等とのオンライン授業の試行を行った。 ・田能資料館の図録をリニューアルし刊行した。	・市内の小学校からの来館・見学を増加させることが望ましいが、交通便利性の面で不利な立地であり、学校見学に来てもらいたい。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業実施	・来館と事業参加を促進するが、PRの効果も期待しながら積極的に地域等と連携した事業展開に努める。 ・主に小学生を対象としたオンライン授業の充実を図り、田能遺跡の周知や来館促進につなげていく。	-	
29	田能資料館展示事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	特別展・昭和46年度企画展・平成15年度	目的 国史跡に指定されている田能遺跡にみられる弥生文化と他地域の関連・波及状況、弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展などを紹介し、弥生文化の重要性について周知を図ることにより、文化財及び郷土文化に対する市民の関心を高める。 実施内容 (前期)「チャレンジ★やよひのくらし」 (後期)「いらっしやい 田能のおうちー弥生時代の復元住居ー」	対象世代 全世代	実施期間 (前期) 5/12~9/19 (後期) 10/19~3/27	実施回数 (回)	参加人数 (人)	R3 事業費 (単位:千円)	観覧者数	人	28,000	R4	25,261	15,478	24,191	—	・twitter ・市報 ・市HP ・チラシ	—	新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業実施	B	取組の柱の方向性には合致しているとともに、目標達成に達しているため。 また、前期企画展では資料の展示に加え、職員が実際に弥生土器づくりを行う子どものワークショップも実施するなど工夫を行った。	新型コロナウイルス感染症による来館者の減少動向がつかめないなか、令和4年度においては、今後の展示内容の充実を図るため、企画展を年1回とし、改めて収蔵資料や展示施設の整理に集中的に取り組む。	・新型コロナウイルス感染症による来館者の減少動向がつかめないなか、令和4年度においては、今後の展示内容の充実を図るため、企画展を年1回とし、改めて収蔵資料や展示施設の整理に集中的に取り組む。	-	
30	歴史博物館企画展示事業(旧・文化財収蔵庫企画展示事業)	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	目的 歴史博物館(旧・文化財収蔵庫)が所蔵する資料を広く公開するとともに、市民や子供たちが本市の歴史や文化財に関心を持ってもらうことにより、本市のアイデンティティにも貢献する。 実施内容 歴史博物館(旧・文化財収蔵庫)が所蔵する資料を活用した企画展を、同館企画展示室・展示学習室で開催する。	対象世代 全世代	実施期間 第2回「中世尼崎の武者伝説」 4/25~6/27 第2回「尼いも復活物語」 4/29~9/5 第3回「尼崎城を語る」 7/10~9/5 第4回「むかしの小学校」 1/8~3/27	実施回数 (回)	参加人数 (人)	R3 事業費 (単位:千円)	展示観覧者数	人	20,000	R4	929	848	24,705	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・新聞各紙 ・ラジオ ・ケーブルテレビ	—	歴史博物館の開館により、館内で収蔵資料を展示・公開することが可能となり、令和3年度は年間4本の企画展を開催でき、そのいずれも観覧者の関心を高め、高い評価を得ることができたため。	A	歴史博物館の開館により、館内で収蔵資料を展示・公開することが可能となり、令和3年度は年間4本の企画展を開催でき、そのいずれも観覧者の関心を高め、高い評価を得ることができたため。	今後も継続的に年間3本程度の企画展を開催し、尼崎の歴史や文化財に関する市民の関心を高めていくこと。	年間3本程度の企画展を開催していく。	100%	
31	歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	目的 まちづくりの核となる歴史遺産を活用し、市民との協働を進めるとともに、富松城跡の歴史的価値や歴史遺産としての活用方策等を市民と共に考えるためのイベント等を開催する。 実施内容 富松城跡の保存・活用を市民と協働で進めるとともに、富松城跡の歴史的価値や歴史遺産としての活用方策等を市民と共に考えるためのイベント等を開催する。	対象世代 全世代	実施期間 3月19日	実施回数 (回)	参加人数 (人)	R3 事業費 (単位:千円)	事業参加者数	人	100	R4	72	0	10	—	—	富松城跡を活かすまちづくり委員会と連携し、その協力も得て実施した。	—	本年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、対象者をまちづくり委員会の委員のみとした。研修として、近隣史跡の見学会を実施した。	富松城跡の歴史的・文化的価値を広く市民内外に発信する取り組みに努めるとともに、富松城跡の保存・活用方策の検討を市民とともに進め、地域資源としてまちづくりに活用していく必要がある。	これまでは、富松城跡を広く周知するための単発的の事業を行ってきた。今後は、地域在民や学校との連携を更に深め、富松城跡を地域資源として保存・活用していくための取組を進めると共に、歴史博物館を会場とした催しも行っていく。	—		
32	歴史博物館教育普及事業(旧・わくわく体験ミュージアム事業)	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成13年度	目的 地域の歴史に関わる各種体験学習活動をはじめとする教育普及事業を、市民との協働で行うことにより、市民や児童生徒が本市の歴史・文化財に関心を持ち、地域に親着した文化活動の促進に貢献する。 実施内容 ・市民向けの歴史講座の開催 ・学校教員と連携した児童生徒向けの昔のくらし等に関する学習会の開催 ・体験を主とする夏休みの学習会の開催 ・学芸員と協働で体験学習活動を行う市民ボランティア養成	対象世代 全世代	実施期間 通年	実施回数 (回)	参加人数 (人)	R3 事業費 (単位:千円)	事業参加者数	人	4,500	R4	3,057	973	1,129	—	・市報 ・市HP	一部事業は、れきし体験学習ボランティアと協働で実施している。	—	本年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、実施できた事業は例年に比して少なかったものの、市民の学習要求に応えることができているので。	C	取組の柱の方向性には合致している。	令和2年度に歴史博物館と繋がっている事業でもあり、直接、市民や児童生徒が参加している事業でもある。加えて、歴史博物館は教育普及事業として新たな展開を構築していく必要がある。	—	
33	歴史博物館特別展示事業(旧・歴史資料公開活用事業)	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成17年度	目的 教育委員会が行ってきた歴史資料等の収集の成果を市民に還元し、他都市博物館等からの借用資料も加えた特別展を開催することにより、本市が歴史豊かな文化都市であることとPRし、本市のイメージアップに貢献する。 実施内容 歴史博物館が所蔵する歴史資料・美術工芸資料等と他都市博物館等からの借用資料を活用した企画展を、同館企画展示室を会場に開催する。	対象世代 全世代	実施期間 10月2日~11月30日	実施回数 (回)	参加人数 (人)	R3 事業費 (単位:千円)	展示観覧者数	人	1,500	R1	2,190	9,630	10,367	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・新聞各紙	市民との協働により行っている教育普及活動の中を紹介した。	—	歴史博物館の開館により、館内で他都市博物館等の借用資料も活用した特別展開催が可能となり、令和3年度は単回特別展を開催でき、1万人を超える観覧者があり、観覧者のアンケート調査結果によると、高い評価を得ることができたため。	A	歴史博物館の開館により、館内で他都市博物館等の借用資料も活用した特別展開催が可能となり、令和3年度は単回特別展を開催でき、1万人を超える観覧者があり、観覧者のアンケート調査結果によると、高い評価を得ることができたため。	今後も継続的に毎年1回の特別展を開催し、尼崎の歴史や文化財に関する市民や市外からの来訪者の関心を高めていくこと。	年間1回に企画展を開催していく。	100%